



東北オープンアカデミー 【2020年度報告書】

東北オープンアカデミー実行委員会

2021/03

目次

1 .はじめに

2 .2020年度の取り組み

- ① 東北OAチャンネル
- ② みちのく復興事業シンポジウム
- ③ 東北次世代育成基金

1.はじめに

今期最終年度を迎えた**東北オープンアカデミー2020**は、「東北各地のリーダー同士の交流」を目的に、オンラインダイアログを企画してきました。また、震災10年の節目に、みちのく復興事業パートナーズと共同で、第9回みちのく復興事業シンポジウムにおいて、ダイアログ企画を拡大開催しました。およそ60名が参加し、これまでの10年を振り返るとともに、未来に向けた個々人の展望が描ける機会となりました。

フィールドワークを開催することは依然難しい状況ではありましたが、オンラインだからこそ各地域の思いのある方とのつながりも生まれ、この6年間の取り組みを通じて、**71件のフィールドワークの場**に、**延べ395名**が足を運びました。さらに、これまで積み上がってきた人のつながりやお金の流れを未来につなげていくべく、「みちのく共創キャンプ」の場を通じて「**東北次世代支援基金**」の創設が**実現**したことも大きな成果となりました。



2. 2020年度の取り組み

① 東北OAチャンネル

・日時：10月10日（土）13:00-15:00

・テーマ：「これからの関係人口」を考える

・参加者：9名

・内容：「『関係人口』というワードは、そもそも行政が使うべきではないのでは」「様々な層の自治体で生きるという概念の中で、第1自治体、第2自治体、とレイヤーごとに考えることもできる」「第1自治体と第2自治体のハイブリットの存在も鍵になりそう」と、いわゆる「**関係人口**」は**既存の自治体区分ではとらえられないという点に**、地域を超えた人々同士の関係構築のヒントが見える場となった。

<オーガナイザー> 佐藤恒平氏（地域振興サポート会社 まよひが企画）：

1984年生まれ福島県出身。着ぐるみキャラクター「桃色ウサビ」による町のPR活動を皮切りに、ふるさと納税、地域学校教育などの分野で実験的な手法による地域振興プロジェクトを手掛けている。

<スピーカー> 丸尾徹氏（北海道教育庁）：

青森県出身。宮城県での公教育における課題解決型の提案営業経験を経て、現在は北海道教育庁にて、社会教育事業に広く携わる。



2. 2020年度の取り組み

② みちのく復興事業シンポジウム

- ・日時：3月3日（水） 第1部 16:00-18:00 / 第2部 18:15-19:30
- ・テーマ：「東北から問い直す。働く、暮らす、生きる。（今こそ、東北とつながろう）」
- ・参加者：およそ60名
- ・内容：東北のリーダーたちとの対話を通じてありたい未来を考えることを目的に、6名程度の小グループに分かれて、東北での活動者と共に「この10年で大切にしてきたこと」「これから大切にしていきたいこと」についてダイアログを実施した。

参加者からは、「日本各地で地域活性化や事業の立ち上げにおいて同様の取り組みが行われているが、まだまだ縦割りの色が濃く横の連携が出来ていない。もっと情報やリソースのシェアを進めるべく、横の連携を図るべき。」「復興事業の実践者が、必ずしも高い理想と使命に突き動かされているわけではないことを知って、消極的な自分を少し肯定できる気がした。」「熱意や使命感だけでなく、生活の必要などに迫られて事業を始めた、クールな『爽やかなリーダー』たちと話せたことがよかった。」といった声が寄せられた。また、この時間を通じて震災後の10年とこれからの、いかに「自分ごと化」するかという点に焦点が当てられた。



<トークオーナー>

- ・一般社団法人あすびと福島 代表理事 半谷 栄寿氏
- ・株式会社ワンテーブル 代表取締役 島田 昌幸氏
- ・株式会社北三陸ファクトリー 取締役 眞下 美紀子氏
- ・株式会社パソナ東北創生 代表取締役 戸塚 絵梨子氏
- ・一般社団法人ワカツク 代表理事 渡辺 一馬氏
- ・地域振興サポート会社 まよひが企画 代表 佐藤 恒平氏
- ・一般社団法人イシノマキ・ファーム 代表理事 高橋 由佳氏
- ・一般社団法人はまのね 代表理事 亀山 貴一氏
- ・大沼農園 代表 大沼 ほのか氏
- ・桐生第一高等学校 高畠 靖明氏
- ・エディター/ライター 中川 雅美氏



半谷 栄寿氏



島田 昌幸氏



眞下 美紀子氏



戸塚 絵梨子氏



渡辺 一馬氏



佐藤 恒平氏



※みちのく復興パートナーズの取り組み

みちのく復興事業パートナーズとは、NPO法人ETICが東日本大震災の復興に向け、現地で復興に取り組み、今後の東北を支えていく現地のリーダーたちを企業が力を合わせて支援していくこと通じて、東北の自立的な復興の流れを支える企業コンソーシアム。花王株式会社、株式会社ジェーシービー、株式会社電通、株式会社ベネッセホールディングスの4社が参画。（2021年3月現在）

震災以降、**震災復興リーダー支援プロジェクト**を立ち上げ、現地の復興を担うリーダーの右腕となる意欲ある人材を派遣する「**右腕派遣プログラム**」や、東北での起業を応援する「**みちのく起業**」などを通して東北を支えていく現地のリーダーたちを応援。現地のリーダーと共に、現地のニーズを明らかにし、企業の持つ人材、情報、専門性などのリソースに的確につなげたり、現地の取り組みの情報発信を支援していくことで、東北の自立的な復興の流れを支えることを目指してきた。



2. 2020年度の取り組み

③ 東北次世代育成基金

“震災10年の東北を伝え、10年たってU25になった若者の挑戦できる「打席」をつくり、東北の次の10年をつくるプロジェクト”

【趣旨】

東日本大震災の発災から10年が経過した2021年、発災当時小学4年生だった子どもは20歳を迎え、15歳だった子どもは25歳を迎える。

これまでの震災復興を担ってきたのは、発災当時20-30代。特に大学生の活躍はめざましく、今では地域のリーダーとなっている人もいる。これは彼らの意志とそれを支える分厚い支援があったからと考える。

次の10年をつくっていくため、社会的な活動をはじめることに対する支援が先細る中、やっと社会にデビュー出来る年齢になった今の若者たちを支える仕組みをつくること目指す。



【概要】

本基金は、趣旨に賛同する「みちのく共創キャンプ」の関係者で組織する実行委員会が、立ち上げの主体となる。

＜支援対象＞ 東北各地で活動する概ね30 歳以下の若者

＜基金の目標金額＞ 5,000 万円。総額をすべて寄付で集める。

＜使用目的＞ 10年間、毎年10人の若者の挑戦に資金提供を行うとともに、これまで『みちのく共創キャンプ』に参加してきた仲間たちを中心に、挑戦者同士が相互に応援しあうコミュニティを構築していく。

※みちのく共創キャンプ:東北のリーダー同士がつながり、励まし合い、創り上げる場。民間企業等の支援により運営<https://michinokubuc.mystrikingly.com>

＜実行委員会メンバー＞（暫定）

・戸塚絵梨子(株式会社パソナ東北創生 代表取締役社長)・半谷栄寿(一般社団法人あすびと福島 代表理事)・高橋あゆみ(復興支援センターMIRAI コーディネーター)・山内幸治(認定 NPO 法人 ETIC. 理事・事業統括ディレクター)・実行委員長:渡辺一馬(一般社団法人ワカツク 代表理事)・名誉アンバサダー:岩隈久志氏(シアトル・マリナーズ 特任コーチ)

【次世代が担う取り組み事例】

・NPO法人TEDIC

代表の門馬優さんが学生時代に故郷である石巻で設立。

さまざまな困難におかれる子ども・若者を支える支援を行っている。

<https://www.tedic.jp>



・一般社団法人まるオフィス

代表の加藤拓馬さんが学生時代にボランティアで訪れていた気仙沼で設立。

地元の若者と移住した若者とで立ち上げたまちづくり会社

<https://maru-office.com/>

・NPO法人SET

代表の三井さんが学生時代にボランティアで関わった陸前高田市で設立。

域外から若者を呼び込み地域づくりをしている団体。

<https://set-hirota.com>



【キックオフイベント@オンライン】

・日時：3月28日（日） 13:30-15:00

・参加者：およそ40名

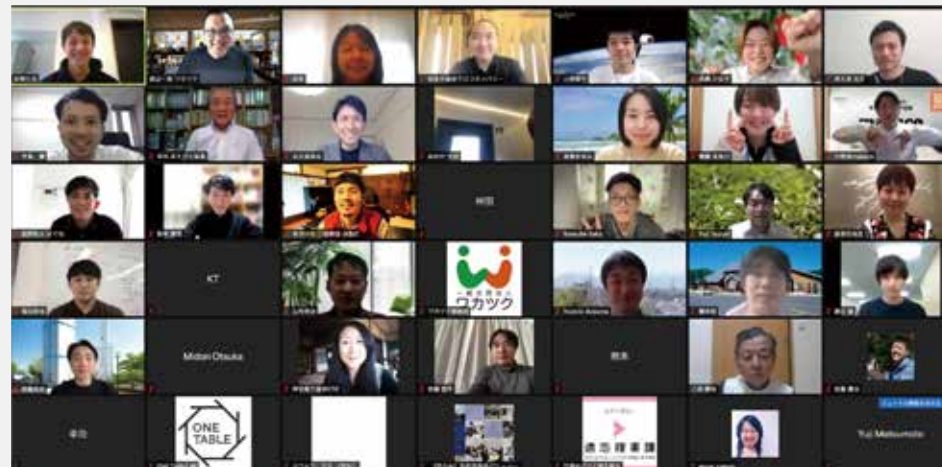
・内容：

1) 若者によるトークセッション『これからの10年』

2) 東北次世代育成基金の説明

3) 名誉アンバサダー岩隈久志氏からのメッセージ

若者によるトークセッションでは、松本光基さん、中野柊一郎さん、高橋ひなこさんより、それぞれ“若者の居場所作り”、“生きづらさをかかえる子供のケア”、“挑戦し続ける気運づくり”といった取り組みについて、それぞれの活動とこれからの挑戦についてお話いただいた。また、岩隈氏より、若者のチャレンジを東北から支えることの意義とともに激励のメールが送られた。





**TOHOKU
OPEN
ACADEMY**